

在スロバキア日本国大使館

政治・経済月報（2013年1月）

目次

内政

- ◆建国20周年に際しての主要政治家のコメント 2
- ◆大統領による検事総長任命拒否問題 3
- ◆Smer、国民記憶院の新院長候補指名を取り下げ 3

外交

- ◆フィツォ首相のオーストリア公式訪問 4
- ◆ライチャーク外相の独訪問 4
- ◆イラン当局、スロバキア人をスパイ容疑で拘束 5
- ◆チェコ大統領選挙の結果に関するスロバキア要人のコメント 5

社会

- ◆本年着工予定の高速道路建設計画 6
- ◆コシツェで欧州文化首都オープニングセレモニー 6

経済

- ◆ムーディーズ、スロバキアの財政赤字目標達成を疑問視 6
- ◆台湾系企業、スロバキアへの新たな投資に意欲 7
- ◆独仏企業、スロバキア・ガス工業株をチェコ企業に売却 7
- ◆露原子力企業 Rosatom、ボフニツェ原発の新プラント建設参入に意欲 8
- ◆モホウツェ原発新プラント、稼働開始延期が確実に 8
- ◆国内ガス・パイプラインの輸送量低下 8
- ◆昨年12月の国内失業率、過去9年間で最高の14.4% 9
- ◆欧米企業4社、スロバキアに新たな投資計画 9
- ◆経済指標2012年1～12月 10

内政

◆建国20周年に際しての主要政治家のコメント

昨年12月31日付当地「スメ」紙は、スロバキア建国20周年にあたってのガシュパロヴィチ大統領及び歴代首相のコメントを掲載した。その概要は以下のとおり。
(なお、フィツォ首相のコメントは掲載なし。)

○ガシュパロヴィチ大統領

スロバキア独立後最初の20年間は、スロバキア人の歴史の中で最も意義のある、最もダイナミックな、最も驚嘆すべき時期となった。ただし、それは険しい道のりであった。当初の数年間、失業率が50%を超える地域を抱えるなど、大きな社会的困難に直面していた。我々は、過去から忍耐力を学んだことで、当初の困難を克服した。

○メチアル元首相（チェコとの分離手続きの是非について）

チェコ側と分離に関する交渉を行った際、自分は国民投票を行う提案を示したが、彼らは我々にたいし、自分たちは選挙により国民の信任を得ているのだから、国民投票は必要ないと述べた。その後の経緯は、国内の一部の不满分子を除き、国際的な信任を得ている。

○ズリンダ元首相（チェコとの分離手続きの是非について）

メチアル氏には、他に選択の余地が無かったと感じている。チェコ側は、スロバキアとの共生及び長期にわたる権力争いを、重荷と見なしていた。結局、決定的な判断はチェコ側によってなされた。

○ラディチョヴァー前首相

(チェコとの分離手続きの是非について)

チェコとスロバキアは、分離してしまうよりも、両者が比較的強力な主権を有したまま連邦体制を維持するべきであった。分離を決定した際の（非民主的な）方法は、政治家が国民の信任を経ずして政治的決定を行うという現在の政治文化にも、なお悪影響を与えている。

(スロバキアの現状について)

スロバキアは、現在もなお寡頭制民主主義と呼べる状態であり、その原因はメチアル政権期に行われた公有資産の不正な私有化にある。当時、政治的に組織化された寡頭制が成立し、我々は現在も寡頭制民主主義の下に生きている。

◆大統領による検事総長任命拒否問題

ガシュパロヴィチ大統領は2日、国会によって選出された検事総長候補者ヨゼフ・チェンテーシュ氏の検事総長への任命を拒否する決定を行った。この決定は、野党やメディアの強い反発を招き、政治問題化している。

ラディチョヴァー前政権期の2011年2月、トゥルンカ前検事総長の任期が満了し、同年6月に国会における投票によってチェンテーシュ氏が検事総長候補に選出された。同年10月、投票結果の正当性が憲法裁判所にて確認されたにもかかわらず、検事総長の任命権限を有する大統領が同氏の任命を行わず、以来検事総長不在の状況が続いていた。2012年10月、大統領の不作為にたいするチェンテーシュ氏の訴えを受けた憲法裁判所は、選出手続きの正当性を認めると共に、「候補者が合法的に選任されたのであれば、大統領は同候補者を適切な期間内に任命するか、または議会に対し任命の拒否を告げなければならない」旨の判決を下した。同裁判所は加えて、議会によって選出された検事総長候補者が法的要求事項を満たさない場合、若しくは職務遂行能力が疑われうる重大な理由がある場合に限り、大統領は任命を拒否できるとした。

本年1月2日、ガシュパロヴィチ大統領はチェンテーシュ氏の検事総長への任命を拒否する旨の書簡をパシュカ国会議長に送付した。大統領はその中で、任命拒否の理由について、国会における同氏の選出プロセスは透明性に欠けており、政治論議の的になっている点を挙げた。フィツォ首相は、大統領の決定を正当なものであるとし、その立場を支持することを表明した。一方でチェンテーシュ氏は、任命拒否の正当な理由を説明していないとして大統領を批判し、野党もこれに同調している。大統領は9日付大統領府プレスリリースにて、任命拒否は憲法の侵害行為に当たるとするチェンテーシュ氏の訴えを法的根拠の無いものとして批判し、自身の立場の正当性を国民に訴えかけた。

◆Smer、国民記憶院の新院長候補指名を取り下げ（30日付「スメ」）

与党Smerは28日、国民記憶院(ÚPN:「全体主義体制における抑圧の事実を明らかにする」目的で2002年に設置)の新院長に指名されていたJ.カリナ氏に対する党内一部議員からの批判のを受け、同氏の指名を撤回する決定を行った。カリナ氏は、チャプロヴィチ教育大臣の知人であり、同大臣によって新院長候補に推薦されていた。しかし、彼の歴史観、特に第二次大戦中に成立した独立スロバキア共和国(ナチス・ドイツの傀儡国家であり、国内のユダヤ人に対する弾圧に加担した)に対する否定的な見

方が、Smer内の民族主義派議員によって問題視されていた。党内の融和を重視するフィツォ首相は、28日に開催された党所属議員会合でカリナ氏の指名取り下げを提案し、承認された。

外交

◆フィツォ首相のオーストリア公式訪問

14日、フィツォ・スロバキア首相はオーストリアを公式訪問し、ファイマン・オーストリア首相と首脳会談を行った。

フィツォ首相の今回の公式訪問は、スロバキア共和国建国及びオーストリアとの国交樹立20周年記念の一環として行われた。フィツォ首相とファイマン首相は会談において、欧州経済危機に協力して対応していく必要性を確認した。フィツォ首相はこれに関連し、税収の増加によって財政強化を目指す取り組みの必要性を強調、スロバキアに蔓延している税金逃れの風潮と戦っていく決意を示した。

両首脳は、両国間の経済協力についても協議した。特に、経済協力に関する具体的なテーマや計画を取り扱う大臣級特別会合の実現、ウィーン、ブラチスラバ、ブダペストを結ぶ高速鉄道路線の建設、石油パイプライン「ドゥルジュバ」のオーストリア・シュベヒャート精製所（ウィーン近郊）への結合が話題となった。

◆ライチャーク外相の独訪問

16日～17日、ライチャーク副首相兼外相は独を訪問した。

同外相は17日、ベルリンにて開催されたスロバキア共和国成立及びスロバキア・独外交関係樹立20周年記念レセプションに出席した。外相は冒頭の挨拶にて、独はスロバキアにとって貿易及び投資の分野でも重要な国である旨述べた。またゲンシャ一元独外相に白複十字二等勲章を授与し、同元外相は、中欧のみならず、世界全体の政治に安定化をもたらした重要な人物である旨述べた。

同日、ライチャーク外相はヴェスターヴェレ独外相と外相会談を行った。欧州における各種問題、マリ及びシリア情勢、中東和平、西バルカン、東方パートナーシップが主な議題となった。欧州関連問題では特に2014年から2020年までの財政枠組みに重点が置かれた。また西バルカン情勢に関して、ライチャーク外相は西バルカン諸国なしではEUは完全体とならず、一方各国は諸改革の実施等必要事項を満たさなければならない旨述べた。東方パートナーシップについては、両外相は、ヴィリニウスにおけるサミットが今後の発展にとって非常に重要となる旨述べた。

◆イラン当局、スロバキア人をスパイ容疑で拘束(22日付各紙)

スロバキア人企業家の Matej Valuch 氏(26)が、イラン当局によってスパイの嫌疑をかけられ、拘束されていたことが明らかとなった。同氏は、イラン秘密警察が撮影したビデオ映像に登場し、米中央情報局(CIA)への協力を行っていたことを認める発言をしている。スロバキア外務省は、Valuch 氏との接見をイラン政府に対して何度か申し入れたが、拒否された。同氏の家族によれば、同氏がイランに滞在していたことは確かだが、昨年12月初頭以来連絡が取れていないという。なお、ビデオの中で Valuch が言及した CIA のエージェントとの接触について、米側は否定している。(当館注：その後、Valuch 氏は2月6日に解放され、同8日に帰国した。)

◆チェコ大統領選挙の結果に関するスロバキア要人のコメント

(28日付「プラウダ」)

26日に実施されたチェコ大統領選挙に勝利したゼマン元首相に関し、28日付「プラウダ」紙はスロバキア要人の以下のコメントを掲載している。

○ガシュパロヴィチ大統領

チェコ共和国の憲法体制の最上位には、自国民とスロバキアとの緊密かつ友好的な関係を尊重する、際だった人物が立つ。この事実及びミロシュ・ゼマンの経験は、両国間関係の発展並びに、現在また将来の地域的、ヨーロッパ的、国際的諸問題を解決する上での協力関係継続にとっての保証となる。

○フィツォ首相

最終的な選挙結果を待つまでもなく、既に第2回投票の段階で、チェコの大統領に重要かつ力強い人物が就任することは明らかであった。自分は、長年の知己であり、自身の個人的な友人であると見なしているミロシュ・ゼマンを祝福したい。チェコの有権者の判断に敬意を表する。

○ブガール「架け橋」(Most-Hid) 党首

今回の選挙結果は有権者の判断であり、それを尊重する必要がある。自分はシュワルツェンベルク候補(ゼマン元首相の対立候補)を応援していたのだが、しかし有権者の意思は常に尊重すべきである。直接投票によって選出されたことも、ミロシュ・ゼマンに権威を与えるだろう。

○フレショ・スロバキア民主キリスト教同盟(SDKU) 党首

勝利した候補の得票(当館注：54.8%)及び選挙における高い投票率(当館注：約59.1%)は、ミロシュ・ゼマンに大統領としての強力な信任を与えることとなっ

た。彼の大統領としての任期が、チェコ共和国にとっての次の成功期間となることを望む。

社会

◆本年着工予定の高速道路建設計画

(11日付「経済新聞」)

スロバキア交通省は、今年新たに約80kmの高速道路の建設に着手する計画を公表した。道路建設に充てられるとされる総額6億5700万ユーロのうち、半分以上はEU基金からの補助金であり、残りは昨年承認された今年の予算案に盛り込まれている。交通省の報道官は、上記の額は計画実現に必要な資金を十分にカバーするものであるとしている。しかし、一部の建設企業の専門家には、資金調達の観点からこの計画が実現困難であると見る向きもある。問題は、予算内部に十分な費用を確保することが実際に可能であるか、という点である。経済成長の減速により税収が低下すれば、政府は支出削減に踏み切らざるを得なくなる、と言われている。ある専門家はこれに関連し、過去3年間、政府の高速道路建設計画が一度も完全に実現されなかった事実を指摘している。

◆コシツェで欧州文化首都オープニングセレモニー(21日付各紙)

今年の欧州文化首都に選定されているコシツェにおいて、19、20日の両日、大規模なオープニングセレモニーが開催された。セレモニーの参加者は、4万人に達したと推定される。今後同地においては、様々なジャンルにわたる約200件のコンサート、映画、ダンス、写真展、ファッションショーなどの文化行事が集中して行われる。政府は、これによりコシツェを来訪する観光客の数が30%増加すると見込んでいる。

経済

◆ムーディーズ、スロバキアの財政赤字目標達成を疑問視(10日付「経済新聞」)

世界三大各付け会社の一つであるムーディーズは9日、スロバキア政府が今年の財政赤字抑制の目標値として掲げているGDP比3%以下の実現を、疑問視する見方を公表した。その要因としては、昨年(2012年)の財政赤字が政府見積もり(GDP比4.6%)を超過する可能性が高いこと、今年(2013年)の経済成長の鈍化、及びそれに伴う税収額の低下が挙げられている。

ムーディーズは今回、昨年の財政赤字が GDP 比 5% を超える可能性を示唆したが、カジミール財務相はこれを否定し、当初の見積もり通り 4.6% 前後になるとの見方を示している。ただし、今年の財政赤字抑制の目標達成が容易ではないことは、財務省幹部も認めている。仮に今年の経済成長率が 1% にとどまった場合、2 億 5 千万ユーロの税収不足が生じ、それを別の手段で補う必要が出てくるという。フィツォ首相は既に、必要ならば国家支出の削減に取り組む姿勢を明らかにしている。

◆台湾系企業、スロバキアへの新たな投資に意欲（10 日付「経済新聞」）

「経済新聞」のインタビューに応じた台湾商業支援会議 (TAITRA) の Yuen-Chuan Chao 議長は、現在スロバキアに進出している台湾系企業に加えて、将来的には情報技術分野及び自動車製造関係の企業が投資に乗り出す可能性を示唆した。また、既存の電子機器関係企業についても、経済危機後の再生に備えて、新たな投資計画を練っているという。例えば Delta Electronics Slovakia 社 (従業員数 780 名) の広報担当は、同社が新たな生産施設の建設のために既に 1300 万ドルを投資し、新技術開発のためにさらに 7~800 万ドルの投資を予定している、と述べた。この他、Foxconn 社 (従業員数 1300 名) も、生産拡大を計画しているとみられる。また Chao 氏によれば、近い将来、自動車電子部品製造企業の投資が見込まれるという。スロバキア投資・貿易開発庁 (SARIO) のシモンチッチ長官も、投資家との接触を持っていることを認めたが、どの段階まで話が進んでいるかは明らかにしていない。

◆独仏企業、スロバキア・ガス工業株をチェコ企業に売却（16 日付「経済新聞」）

15 日、ドイツ E.ON Ruhrgas 社及びフランスの GdF Suez 社は、自身の保有する公益企業スロバキア・ガス工業 (SPP) 株 (全体の 49%) を、チェコのエネルギー企業 EPH 社に約 26 億ユーロで売却した。独仏の両社は、2002 年に SPP 株をスロバキア政府から 24 億ユーロで購入して以降、11 年間で 32 億ユーロの純利益を上げたと思われる。新たな株主となった EPH 社は、今年中はガス料金を値上げしないとの確約のもと、フィツォ政権から株式取得の承認を得た。同社が SPP に目をつけたのは、スロバキア国内でロシアからの西欧へのパイプライン移送を管理・運営する SPP の子会社 Eustream の存在に依るところが大きいという。一方スロバキア政府は、家庭や企業へのガス供給業務を行う SPP 本体への関心を表明している。現在 SPP 株の 51% を保有する政府が、更なる株式購入に乗り出すかどうかは、3 月末に SPP に対する会計監査が終了した後に決定される。

◆露原子力企業 Rosatom、ボフニツェ原発の新プラント建設参入に意欲

(17日付「スメ」)

2008年、当時の第1次フィツォ政権によってボフニツェ原子力発電所 V3 プラントの新設が表明され、国営企業 JAVYS とチェコ企業 ČEZ との合弁企業 JESS が、建設計画を進めていた。しかし、ČEZ は昨年末に新プラント建設への参画を断念し、自身が保有する JESS の株式(全体の49%)の売却を希望していた。これにたいし、ロシアの原子力企業 Rosatom が、ČEZ の保有する株式を購入し新プラント建設を引き受ける意思のあることを表明、両社は株式売買に関する覚書を取り交わした。スロバキア側も、この覚書にサインした。ただし、スロバキア経済省および ČEZ は、スロバキア政府の同意を経ずに株式の売却が行われることはないとしている。

◆モホウツェ原発新プラント、稼働開始延期が確実に(21日付「経済新聞」)

モホウツェ原発における新プラント(第3号、第4号炉)建設に取り組むスロバキア電力(SE)の最大株主で、建設事業における最大の投資企業である伊 Enel 社は、資金難による建設計画の遅れと稼働開始の延期を認めた。3号炉及び4号炉の完成予定は、当初の計画ではそれぞれ2013年、2014年とされていた。しかし建設資金が当初の見積もり(18億ユーロ)より大幅にかかる見込み(30億ユーロ)でることが判明した結果、原子炉の完成はそれぞれ2014年、2015年にずれ込むことが確実となった。なお必要とされる資金の調達については、今後 Enel 社と政府が交渉の上合意するという。

◆国内ガス・パイプラインの輸送量低下(21日付「経済新聞」)

スロバキア国内を通るガス・パイプラインの管理・運営企業である Eustream 社(公益企業スロバキア・ガス工業の100%子会社)は、昨年のガス輸送量が2011年と比べて約4分の1低下したことを明らかにした。同社の株式の51%を保有している政府は、これにより数百万ユーロの配当利益を損なうことになる。

ロシアからウクライナ、スロバキア、チェコを経て西欧に至るガス・パイプラインは、長らくロシア産天然ガスのEUへの主要供給ラインであり続けた。しかし、これにバルト海を経由する北方ライン Nord Stream が加わり、またロシアの天然ガス輸出量が全体的に減少していることが、スロバキア経由ラインの輸送量の低下につながっている。Eustream は、ロシアのガス大手ガспロムとの間で、年間最低500億 m³ のガス輸送を行う契約を結んでいる。2011年の輸送量は、736億 m³ であったが、

2012年には556億m³へと減少した。この減少分の多くが、Nord Stream に流れた。さらに、2年後にはロシアから黒海、バルカン半島を經由してオーストリア及びイタリアに至る南方ライン South Stream の完成が見込まれており、ロシア産の天然ガス輸送をめぐる競争は激しさを増すことが予想される。

◆昨年12月の国内失業率、過去9年間で最高の14.4% (22日付「経済新聞」)

昨年12月のスロバキア国内失業率は、過去9年間で最高の14.4%に達し、失業者数は約42万6000人に上ることが明らかとなった。専門家や野党は、この原因を、雇用者に不利な労働法改正、法人税増税、そして経済成長の減速に求めている。一部専門家の見積もりによれば、職業紹介局への登録者数はさらに増加する見込みであるという。

失業率上昇の一方で、政府は雇用創出のための方策を準備している。マラティンスキー経済相は、投資誘致のためのインセンティブとして、課税減免措置に加えて補助金の直接支給を打ち出している。政府の計画している投資誘致プロジェクト数は合計26、総額5億7500万ユーロで、4800人分の雇用創出を見込んでいる。プロジェクトの対象企業のうち、半数はスロバキア市場に新規参入する企業とされている。マラティンスキー大臣は、その多くが機械工業及び自動車工業に属すると述べているが、具体的な企業名は明らかにされていない。プロジェクトの対象地域としては、失業率が特に高い東部が中心となり、プレショウ県とコシツェ県では2500人の新規雇用が見積もられている。また、従業員数50名以下の中小企業向けに、1社あたり2500～5万ユーロ、総額600万ユーロの特別融資を行う用意があるとしている。

◆欧米企業4社、スロバキアに新たな投資計画 (23日付「経済新聞」)

米自動車部品メーカー大手の Johnson Controls 等、欧米企業4社が、スロバキアへの新たな投資を計画していることが明らかとなった。国内に4カ所の工場を有している Johnson Controls 社は、そのうち中央南部の Lučenec (現在スロバキアで最も失業率の高い地域の1つ) 工場の拡張と200名の新規雇用を計画しており、これに伴う投資インセンティブとして、政府に対して課税減免措置を要求している。また、東部の Michalovce に従業員数600名の工場を有するデンマークの医療機器メーカー Unimedical 社は、同工場において新たに100名の雇用を検討している。新規の進出計画としては、やはり東部の Valnov nad Teplov において、独の木材加工企業 Grandwood 社及び米医療機器メーカー Medline 社が、それぞれ従業員390名、250名の新工

場設立を検討している。

◆**経済指標 2012年1～12月** ※出典：Štatistický úrad SR 及び Eurostat。為替レートについては Interbank Rate を使用 (<http://www.oanda.com/>)

GDP 成長率 (対前年同期比)

四半期	
1	3.0
2	2.7
3	2.2
4	0.7
年間	2.1

消費者物価指数 (対前年同月比)

月	消費者物価総合	食料品価格	エネルギー価格	運輸・交通価格
1	3.9	3.5	5.7	7.6
2	3.8	2.6	5.5	8.1
3	3.8	3.7	4.5	8.3
4	3.6	2.9	4.5	8.0
5	3.4	2.3	4.4	7.1
6	3.6	3.9	4.4	6.7
7	3.7	4.6	4.3	6.1
8	3.7	4.8	3.5	7.0
9	3.6	5.2	3.0	8.1
10	3.8	5.8	3.0	7.5
11	3.4	5.6	2.9	2.0
12	3.2	5.6	2.9	1.2
年間	3.6	4.2	4.4	6.5

失業率

月	スロバキア	ユーロ圏 17 カ国	EU27 カ国
1	13.7	10.1	10.7
2	13.8	10.1	10.8
3	13.7	10.2	10.9
4	13.4	10.2	11.0
5	13.2	10.3	11.1
6	13.3	10.4	11.2
7	13.3	10.4	11.3
8	13.2	10.5	11.4
9	13.4	10.6	11.6
10	13.7	10.7	11.7
11	13.9	11.8	11.8
12	14.4	10.7	11.7
年間	13.9	10.4	11.2

為替レート

月	1ユーロ／円
1	99.2
2	103.6
3	108.9
4	107.2
5	102.4
6	99.3
7	97.3
8	97.4
9	100.5
10	102.4
11	103.7
12	109.6
年間	102.6

外国貿易 (単位:100万ユーロ)

月	輸出	輸入
1	4412.3	4,148.5
2	4747.5	4,399.8
3	5286.6	4,896.7
4	5011.1	4,556.2
5	5275.7	4,715.6
6	5273.2	4,726.5
7	4977.9	4,578.9
8	4912.5	4,889.7
9	5551.8	5,205.0
10	5846.7	5,370.1
11	5760.9	5,466.7
12	4388.0	4,257.1
年間	62747.9	59,111.1

鉱工業生産指数 (対前年同月比)

月	鉱工業総合	自動車工業	電機工業
1	102.1	98.7	111.7
2	108.4	131.7	111.8
3	112.1	142.0	109.4
4	110.9	155.6	112.6
5	110.8	155.2	111.2
6	111.3	150.9	106.3
7	118.5	183.9	116.0
8	117.0	177.2	109.2
9	113.0	165.5	92.4
10	108.1	131.5	105.2
11	105.2	123.3	104.7
12	95.6	90.0	100.8
年間	110.8	143.6	107.7

景況感

月	スロバキア	ユーロ圏 17 カ国
1	95.6	93.4
2	93.0	94.5
3	97.9	94.4
4	98.9	92.9
5	97.4	90.6
6	96.2	89.9
7	92.3	87.9
8	91.8	86.1
9	92.4	81.0
10	86.0	84.3
11	84.1	85.7
12	87.4	87.8